

僕の住民監査請求 第四部 零落篇

中 相作

ええかげんにしとかなあかんぞと

「ええかげんにせえッ」

「いったい誰に怒ってますねん」

「誰に怒ってるのか自分でもわからなくなるぐらい怒ってるわけです」

「たしかに腹の立つことは多いですね」

「僕なんかもうテレビでニュースとか見ても怒りっぱなしですから」

「それは君だけやないと思いますけど」

「そうかと思うと何が起きたのか理解できないようなニュースもありまして」

「どんなニュースですねん」

「公安調査庁の元長官が朝鮮総連と裏でつるんでたゆうニュースとかね」

「あれだけはほんまに信じられへんようなニュースでした」

「ブッシュとフセインがじつは愛人関係にありましたみたいな話ですから」

「そんなことあるわけがないな」

「こうなるともう裏で誰が何をやっていてもけっして不思議ではない感じです」

「ばれなかったら何をしてもいいという風潮が強まってるみたいですね」

「ばれへんかったら牛肉のミンチに豚肉まぜて水増ししてもええとか」

「あの北海道の会社の食肉偽装事件ね」

「ばれへんかったら賞味期限が切れたよその会社の冷凍コロッケを安う仕入れて転売してもええとか」

「あれはコロッケを横流しした業者も悪いんですけど」

「ばれへんかったら冷凍した肉を雨水で解凍してもええとか」

「あとからあとからなんぼでも不正が出てきました」

「実際あれだけ有能なアイデアマンはちよつと見あたりませんから」

「不正のアイデアマンではあかんがな」

「名張まちなか再生委員会もあの食肉偽装の社長さんに一枚かんでもろてたらよかったんでしょね」

「なんでですねん」

「あの社長さんやったらもつとまじないンチキを指南してくれましたやろ」

「そんな指南はあかんゆうのに」

「でもばれへんかったら何してもええねんゆうて官民学が陰でこっそり癒着してみてもあの程度のことなんですから」

「癒着ゆうたら語弊がありますけど」

「この手の悪事はあくまでもばれへんかったらゆうのが前提なんです」

「ばれたらえらいことになります」

「たとえば社会保険庁がそうですね」

「年金記録の問題がばれましたから」

「おかげで名張まちなか再生委員会はいまや名張の社会保険庁と呼ばれました」

「そんなうそゆうたらあかんがな」

「ええかげんにせえッ」

「今度は誰に怒ってますねん」

「あの報告書もばれへんかったらええねんみたいな感じが濃厚なんです」

「三重大学の報告書ですか」

「『歴史・交流拠点としての旧細川邸改修に向けて』ゆうやつですね」

「どのへんがばれへんかったらええねんゆう感じなんですか」

「たとえばあの『ワークシヨップ編』の『はじめに』なんか見ましても」

「年度がまちごてたゆうとこですか」

「あの報告書はそもそも公表を前提としてませんからそんなような不注意なミスが生じやすいわけなんですけど」

「緊張感がないんですかね」

「ケアレスミスはまだいいとしても意図的なパラフレーズがあるんです」

「パラフレーズといいますと」

「ひとつの表現を別の言葉に置き換えてしまうことです」

「どんなんですねん」

「そろもうひどいもんです」

「年度のほかに問題があるんですか」

「あの文章には『名張まちなか再生プラン』において、旧細川邸を改修し、歴史・交流拠点として整備することが提案されている」と書かれてるんですけど」

「それはちよつとおかしいですね」

「名張まちなか再生プランには『初瀬街道沿いの最もまとまりのある町並みの中にある細川邸を改修して歴史資料館とします』と明記されてるわけですから」

「歴史資料館が歴史交流拠点という言葉にパラフレーズされてるわけですね」

「曲学阿世という言葉があります」

「キョクガクアセイてなんですねん」

「学を曲げて世におもねるという意味です。阿は旧阿山町の阿と書きますけど」

「阿はおもねるゆうことですか」

「つまり学問を曲げて世間や権力に迎合してしまう態度のことです」

「あんまりええ態度やないわけですね」

「歴史資料館として整備するというプランを策定した委員会の委員長を務めた先生の研究室が知らん顔して細川邸は歴史交流拠点になることが決まりましたみたいいうそかましてどないするねん」

「それが曲学阿世ですか」

「このパラフレーズだけで報告書全体の信頼性がゼロになってしまふんです」

「けど実際はこう書くしかなかったんがちがいますか」

「まさしく必然的なものでしょうね」

「どうゆうことですねん」

「まちなか再生委員会はインチキにインチキを重ねてここまで来たんですけど」

「たしかにいろいろありました」

「そのインチキのツケが避けがたく回ってきたということでしょう」

「インチキをしたばかりにパラフレーズをしなければならなくなつたと」

「インチキの片棒かついでるようなこんな研究に税金百四十九万九千円を投じることはとうてい容認できません」

「やっぱり住民監査請求ですか」

「ばれたらえらいことになるんです」

「ニュースを教訓にせなあきませんねん」

「おかげで名張まちなか再生委員会はいまや名張のミートホープゆうて呼ばれてるんですから」

「うそをゆうたらあかんゆうのに」

「ええかげんにせえッ」

「またかいな」

「けどほんまにええかげんなんですからこの三重大大学の報告書」

「まだありますのか」

「細川邸はさっきのところで《歴史・交流拠点》ゆうことやっただすけどね」

「それがどないしました」

「報告書の六ページからは《歴史・文化拠点》ゆうことになって十二ページでまた《歴史・交流拠点》に戻りまして」

「えらい適当な報告書ですな」

「そのうえ『ワークシヨップ編』の次の『提案編』ではいきなり《歴史拠点および交流拠点となる旧細川邸（仮称『初瀬ものがたり交流館』）ゆうことになってしもてるんです」

「“初瀬ものがたり交流館”がいきなり出てくるんですか」

「なんの前ぶれもなく出てきます」

「その“初瀬ものがたり交流館”が結局は“やなせ宿”になったわけですね」

「なんぼでもころころ変わるほどええかげんで適当な提案やゆうことなんです」

「その『提案編』では細川邸についていろいろ提案されてるわけですか」

「提案というより悪だくみの結果報告ゆうたほうが正確ですけど」

「どんな感じですねん」

「たとえば『イベント利用』としては《NPOなばり実行委員会が名張のまちなかを売り出すために、年に数回、まちなか全域を舞台にしたイベントを企画実施し、イベントの拠点会場として使用する。例えば、2006年11月に実施された隠街道市のように、展示や催事の会場などに利用する。駐車場および堤防道路では青空市が開催される。また、“初瀬ものがたり交流館”はイベントの事務局としても利用される」とかですね」

「要するにイベント会場ですか」

「いくら悪だくみしてもこの程度の知恵しか出てこないわけなんです」

「しかし細川邸というハコモノでイベントやりますゆうのやったらほんまに君の言葉どおりハコモノ崇拜主義とイベント尊重思想のあいだで深い考えもなしにふらふら揺れてるだけの話ですがな」

「ほかに《イベント以外の日常的な利用として、第1にNPOなばり実行委員会が運営する事業（例、腕利きおばさんが運営する総菜バイキングのレストラン、腕利きの市民が参加するコミュニティレストラン、地域の人が収集した懐かしの写真展）の会場、第2に市民活動組織やボランティア組織の活動の場（例、ボランティアサークルが行う福祉のパンつくり講座、そばうち講座）、第3に冠婚葬祭などに利用したい市民への貸館が想定される」とかゆう提案もありまして」

「腕ききおばさんのレストランとか蕎麦うち講座とかそんなんであええんですか」

「でも最終的にはこの『提案編』に準じて実施設計が行われたわけなんです」

「“やなせ宿”の基本になったのがイベントとか飲食とか展示とか講座とかこんな程度の提案やったゆうことですか」

「いやそんなんもん提案ゆうたかて君」

「なんですねん」

「施設が“やなせ宿”だけにこんな提案みんなヤラセですがな」

「しょうもないことゆうとる場合か」

「ええかげんにせえッ」

「まだやりますのか」

「それにしても見事なもんですね」

「なんのことですもん」

「僕はいまになって急にこんなこといいだしてゐるわけではないんです」

「といいますと」

「名張まちなか再生プランの素案が発表された時点でこんなインチキプランええかげんにせえゆうてパブリックコメントを提出したわけですから」

「それでいったい何が見事なんですか」

「どれだけゆうても誰ひとりとしてええかげんにしてくれた人がいませんでしたからその点はじつに見事なもんでして」

「感心しとったらあかんがな」

「つくづく実感したのはこのらあほには歯止めがきかないゆうことですね」

「外部の人間の意見を聞く考えはないゆうて明言してゐるぐらいですから」

「あほのみなさんが人のゆうことにいつさい耳をふさいで間違つたほうへ間違つたほうへと突つ走つてくれたわけです」

「それでこのていたらくですか」

「つまり名張市は『生誕三六〇年芭蕉さんがゆく秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』の失敗から何ひとつ学んでないんです」

「やっぱりあの事業とおなじことをくり返してゐるわけですか」

「そこらのあほ何十人と寄せ集めて委員会とかつくつてもろくなもんやないゆうことがまだわかつてないわけですから」

「委員会制度には問題あるでしょうね」

「君だいたい名張まちなか再生委員会の某メンバーがなんと口走つたと思う」

「なんてゆうてましたん」

「おれはこのまちなか再生事業で一億円の金を自由につかえるねん」

「それほんまの話なんですか」

「そんなことゆうて回つてゐるあほもいたぐらいですからほんまにひどいんです」

「信じられへんような話ですけど」

「その手のあほにつけ込まれてゐるようではまちなか再生プランというか名張市という自治体そのものが終わりですから」

「なんでこんなことになったんですか」

「これがつまり『新しい時代の公』たらゆうものの正体なんです」

「伊賀の蔵びらきでも耳にしましたけど『新しい時代の公』てなんですねん」

「頭の腐りきつたお役所の人たちが思考能力のなさを隠蔽するために『協働がどうたらこうたらあー』と呼びかけます」

「協働ですか」

「そうすると私利私欲をむきだしにした地域住民が『協働がどうたらこうたらあー』ゆうてむらがり寄つてくるんです」

「私利私欲ですか」

「名誉欲とか権力欲とか自己顕示欲とかもちろん金銭欲とかを全開にしたあほがなんぼでもわいてきたゆうのが伊賀の蔵びらきの実態でしたからね」

「それが『新しい時代の公』ですか」

「官民双方のあほが野合して何も考えることなく思いつきで好き勝手なことをするのが『新しい時代の公』なんです」

「そんな無茶苦茶ですがな」

「その無茶苦茶を僕は伊賀の蔵びらきでも名張まちなか再生でもまのあたりにしてきたわけですから」

「ええかげんにせえといたなるのも無理ないかもしれせんね」

ほんまにええかげんにしとけよと

「難しいこと考える必要はありません」

「どないしました」

「ただの思いつきでOKです」

「なんの話ですねん」

「だいたいわれわれにもただの思いつき
しかないんですから心配ご無用」

「君いったい誰やねん」

「お役所の人です」

「どうゆうことなんですか」

「お役所の人たちが『新しい時代の公』
というお題目を掲げて地域住民に呼びか
けるときの心の声はこんなかなと」

「そんな心の声では困りますがな」

「けど『新しい時代の公』の実態はこん
なものですから」

「深いことは考えないんですか」

「お役所の人が公とは何かみたいなこと
を真剣に考えたりすると思いますか」

「考えなあきませんかな」

「そんなお役所の人たちが『新しい時代
の公』とか呼びかけたおかげで公という
ものがすっかり変質してしまいました」

「どうしてなんですか」

「官民のみなさん双方ともに公とは何か
とか公と私との関係はどうあるべきかと
かまったく考えようとしませんから」

「けどいちおう公の話なんですから」

「ですからそれは表層的で個別的で恣意
的で欲望の器でしかない公なんですな」

「ちよつと難しいんですけど」

「ひとことでゆうたら私にとつての公」

「私にとつての公ですか」

「個人が思いつきで公を規定する。それ
をそのまま一般化してあやしまない」

「公てそんな適当なものなんですか」

「しかも私にとつての公は私にとつて心
地よいものでなければならぬ」

「心地よいといいますと」

「公に携わる私の名誉欲とか権力欲とか
自己顕示欲とか金銭欲とかを満足させて
くれるのが公でなければならぬ」

「えらい身勝手な話ですな」

「けど伊賀の蔵びらきにおける『新しい
時代の公』はまさにそうでしたから」

「そうやったかもしれませぬね」

「ですから名張市の市民公益活動実践事
業なんかもね」

「市民からいろいろ事業プランを募集し
て毎年やっていますけど」

「完全にプチ伊賀の蔵びらきですから」

「伊賀の蔵びらき事業の縮小版ですか」

「たとえば細川邸の裏にピラミッドとス
フィックスの看板を掲げて喜んでる気の
ふれたようなあほがいましたけど」

「おととしの夏でしたか」

「名張市はあんなインチキ事業を税金で
バックアップしてたわけですから」

「あれが公益活動実践事業やと主張され
たらさすがに引いてしまいます」

「結局『新しい時代の公』の名のもとに
公という概念が変質してさらにその公の
断片化や私物化が進行してるわけです」

「公の私物化ですか」

「げんに細川邸はイベントとか飲食とか
のための施設としてそこのNPOに私
物化されようとしてるわけですから」

「かなりおかしい話になってますから」

「まちの歴史になんの関係もない新しい
施設をつくってそんなもんどこがまちな
か再生やねんゆう話なんです」

「再生からかけ離れてしまいました」

「もう取り返しはつかないんですけど」

「なんですねん」

「僕が提出したパブリックコメントの意味をまったく理解できなかったというのが名張市にとって痛かったですね」

「細川邸は名張市立図書館ミステリ分室にするというアイデアでしたけど」

「あんなんそこらのコンサルタントに何百万という札束を積んでもけっして出てこないアイデアやったんですけどね」

「それを理解できませんでしたか」

「だいたい細川邸をまちなか再生に役立てるのであればそれはあくまでも市の施設として運営されるべきなんです」

「行政の責任ゆうやつでしようね」

「にもかかわらず曲学阿世の名張まちなか再生プランには《歴史資料館の管理運営は民間が担う公設民営方式とします》とか虫のええことが書いてありまして」「名張市が施設をつくってあとの管理運営は民間がやるゆうことですか」

「ゆうたら建て逃げですね。そんなことゆうてるからわけのわからんNPOに私物化されることになるんですけど」

「けど名張のまちで何をやったかて独立採算制では無理でしょうからね」

「だから公共施設なんです。図書館の分室なんです。行政としてその程度の覚悟もないのやつたらまちなか再生とかいいだすんやないわいゆう話なんです」

「新町の古い民家を再生して寄贈図書でミステリ専門の図書館をつくるというのが名張のまちの地域性とかにもね」

「いや君。もう終わった話ですから」

「けど残念な話です」

「パブリックコメントに書かなかったアイデアもまだあるんですけど僕のいちばんのねらいはやはり乱歩のことでした」

「乱歩のことといいますと」

「名張市はなさけない自治体なんです」

「何がですねん」

「名張市立図書館の江戸川乱歩リファレンスブック三冊のデータをインターネットで公開することさえようしません」

「なんですですねん」

「財政難」

「財政難て君」

「どんだけえーゆうような話ですけど」

「なんぼなんでも財政難は関係ないと思いますけど」

「つまり図書館として乱歩のことちゃんとやっていくのがいやなんでしょうね」

「なんですですねん」

「そんなデータをいったん公開したら新しい責任というものが生じてずーっと乱歩のことやっていかなあきませんから」「けどインターネットを利用して乱歩にかんするサービスを提供するのは必要なこととちがうんですか」

「お役所の人はそうは考えません」

「どんなふうに考えますねん」

「なんでもええさかい定年退職するまで波風のない公務員人生を送りたいと」

「なんですねんそれ」

「とにかくミステリ分室構想には名張市立図書館がインターネットを利用して乱歩関連情報を発信したり全国の乱歩ファンやミステリファンと連携しながら名張独自の企画をくりひろげたりする可能性が秘められていたんですけどその芽がこことく踏みにじられてしまいました」

「すべて水の泡ですか」

「何が起きたのか理解できないニュースというのが名張市にもありましてね」

「どんなニュースでした」

「名張市が乱歩文学館の建設を断念」

「新聞に出てましたね。名張市長が市議会で建設断念を表明したそうですけど」

「さっぱり理解できません」

「なんでですねん」

「乱歩文学館について検討していたのは名張まちなか再生委員会なんです。まあインチキな話ではあるんですけど」

「でも二〇〇六年度の総会で乱歩文学館を建てることになったそうですから」

「再生委員会と名張市がプランを勝手に変更できる『時点更新』とかいうインチキ制度をでっちあげただけなんです」

「それでOKゆうことにしたんですか」

「身内で決めただけで市民のコンセンサスなんかどこにもありません」

「乱歩文学館を望む市民の声はあるのと同じですか」

「そんな市民がどこにいるねん」

「それを聞いてどうするんですか」

「思いきり叱り飛ばしたるねん」

「叱らんでもええやないですか」

「不心得な市民は叱り飛ばしたらなあかんのですけどたしかに乱歩文学館をつくらうという話は昔からあったんです」

「それやったらよろしがな」

「けどそうゆう市民要望にはきちんとノーをつきつけとかなあきません」

「なんでですねん」

「どうして名張市に乱歩文学館を建設しなければならぬのか。かんじんの理由がその要望からは欠落してるんです」

「なんでそんなことわかりますねん」

「そしたら乱歩文学館が必要やゆうてる市民つかまえてなぜそんな施設を税金で建てなあかんのか質問してみなさい」

「どないなりますねん」

「まともに答えられる人間はただのひとりもないはずですから」

「けど乱歩顕彰とかいろいろあるのと同じですか」

「それがおこがましいんです」

「なんでですねん」

「顕彰ゆうのは世に知られていないものをひろく知らせることなんです」

「それやったら乱歩は大メジャーですから顕彰なんか必要ないわけですね」

「つまり事実とはまったく逆なんです」

「何が逆なんですか」

「乱歩という有名作家の名前を利用して名張市というあまり知られていない自治体を有名にしたいだけの話なんです」

「それが市民要望の本音ですか」

「市民のみならず行政サイドの願望もそうなんです」

「そしたら乱歩文学館構想の正体はやっぱり自己顕示欲とかそんなんですか」

「そこらのお姉さんが有名ブランドに執着する以上のものではありません。要するにうわつつらだけなんです」

「それで乱歩文学館の中身のことがいつまでも決まらなかったわけですか」

「うわつつらしか考えられない人間にできるのはせいぜい乱歩文学館というハコモノの名称を思いつくことなんです」

「そこから先には一步も進めないと」

「本も読まんような連中が文学館とかいいますから話がおかしくなるんです」

「ほなどないしたらええんです」

「身のたけ身のほどをわきまえたうえで地に足をつけて考えることでしょね」

「乱歩にかんして何をしたらいいのか」

「そこらにしょぼい乱歩文学館とかつくっても全国の乱歩ファンやミステリファンの笑いものになるだけですから」

「学芸員ひとり雇えないでしょうね」

「何かというと財政難という言葉で逃げを打つ名張市にはとても無理です」

「乱歩文学館の建設も財政難で断念したゆうことでしたから」

「ええかげんないわけですけどね」

「けど名張市は財政難ですから」

「まちなか再生委員会が二〇〇六年度総会で乱歩文学館の建設を決めた時点で財政難はわかりきってましたがな」

「そしたらどうゆうことですねん」

「細川邸だけやのうて乱歩文学館も建て逃げする算段やったのちがいますか」

「新聞には文学館の維持管理費がどうこうゆうて書いてありましたけど」

「建設後の丸投げ先が見つからない。市で管理するとお金がかかる。断念するしかない。そんな感じでしょかね」

「ほんまにええかげんな話ですな」

「けど本当にええかげんで理解できないのは名張市長の表明なんです」

「建設断念の表明ですか」

「再生委員会の結論も出てないのになんで市長が断念を表明できますねん」

「たしかに名張市から委員会に検討がゆだねられてるわけですから」

「いっぽうではNPOによる細川邸の私有化工作を放置しておきながらそのいっぽうで再生委員会の協議検討に介入して行政サイドの都合を押しつける」

「なんやようわからん話ですな」

「つまり名張市は委員会とかいろいろつくってまずけど最終的には委員会の主体性なんか認めないゆうことでしょうね」

「いったいどないなってますねん」

「この名張市で何が起きているのか僕にはまったく理解できないんですけど名張まちなか再生プランにかんしてええインチキにインチキを重ねたあげく」

「最後までインチキやったわけですか」

「ええかげんにせえインチキ自治体ッ」

「君そんな大きな声で」

「ではここで問題です」

「なんですなええいきなり」

「この大河漫才『僕の住民監査請求』には『インチキ』と『あほ』という言葉がそれぞれ何回出てきたでしよか」

「そんなもん数えてどないするねん」

「おわかりのかたは官製はがきに正解と住所氏名年齢職業電話番号を明記してどしどしご応募ください」

「そんなことゆうて本気にする人が出てきたらどうするつもりなんですか」

「郵便番号は五一八〇四九二。三重県名張市鴻之台一番町一番地」

「それ名張市役所の住所ですがな」

「この郵便番号は『来いや丸い子宮』とおぼえておくといいでしょう」

「そんなシモネタのおぼえかたし知らないんですか」

「宛先は名張市役所まちなか再生部見事失敗室ええかげんにせえ係です」

「ええかげんにせえッ」

「ええかげんにせえッ」

「ほんまにええかげんにせえッ」

(住民監査請求をめざす名張市民)